

市況予想レンジ

項目	時期	直近3ヵ月実績		
	4月～6月	1月	2月	3月
長期国債10年物(%)	1.60 ～2.10	1.405 ～1.570	1.495 ～1.610	1.560 ～1.815
円ドル相場(円)	112 ～124	113.79 ～117.79	115.70 ～119.18	115.45 ～119.08
TOPIX(東証株価指数)(ポイント)	1,500 ～1,850	1,538.85 ～1,721.92	1,568.50 ～1,719.17	1,595.93 ～1,735.25

今後3ヵ月の市況見通しに月次の実績を記載しております。

当面の見通しと注目点

ファンダメンタルズ

(日本)

景気は、世界的なITの在庫調整終了や中国向け輸出の持ち直しもあり外需が回復基調となる一方、内需も企業の過剰債務など構造的な調整圧力を払拭し、高水準の企業収益や雇用者所得の増加、消費マインドの改善などから堅調を維持することから、内外需バランスの取れた成長を継続するものと予測します。

(米国)

新築の住宅価格上昇率の伸びの鈍化やこれまでの継続的な利上げの消費への影響が懸念されるものの、製造業における在庫調整が一巡していることから生産が堅調を維持する一方、雇用の着実な改善などから消費も底固く、巡航速度程度の成長率を維持するものと予測します。

株 式

(国内)

国内経済は、堅調な内需とハイテク関連を中心に世界的な在庫調整圧力の後退による外需の盛り返しにより、内外需バランスの取れた成長を維持する一方、企業業績も上方修正傾向を強めると考えます。バリュエーションも過度の割安感は払拭されつつあるものの、景気、業績モメンタムから、株価は上昇基調を継続すると予測します。

(外国)

堅調な雇用などから消費マインドが改善を続ける一方、製造業全般の受注環境は堅調であるため、今後の企業収益予想も上方修正の可能性が高いと考えます。金融政策は当面利上げ懸念が強く、株価の頭を抑える要因となるものの、割安なバリュエーションや需給面でも旺盛な増配、自社株買いが下支えとなり、株価は上昇基調で推移すると予測します。

債 券 ・ 為 替

(債券)

(日本) 国内経済が外需の持ち直しを主因とするITを中心とした生産の拡大などにより、内外需バランスの取れた景気回復を続ける一方、消費者物価のプラス基調の定着や海外長期金利の上昇傾向とあいまって、長期金利も上昇基調で推移すると予測します。

(米国) 金融政策は、5月FOMCでの利上げが見込まれ、その後も打ち止め感が出ないものと予測します。長期金利は利上げの最終局面を迎え上昇余地に乏しいものの、利上げ幅と同等程度の緩やかな上昇を予測します。

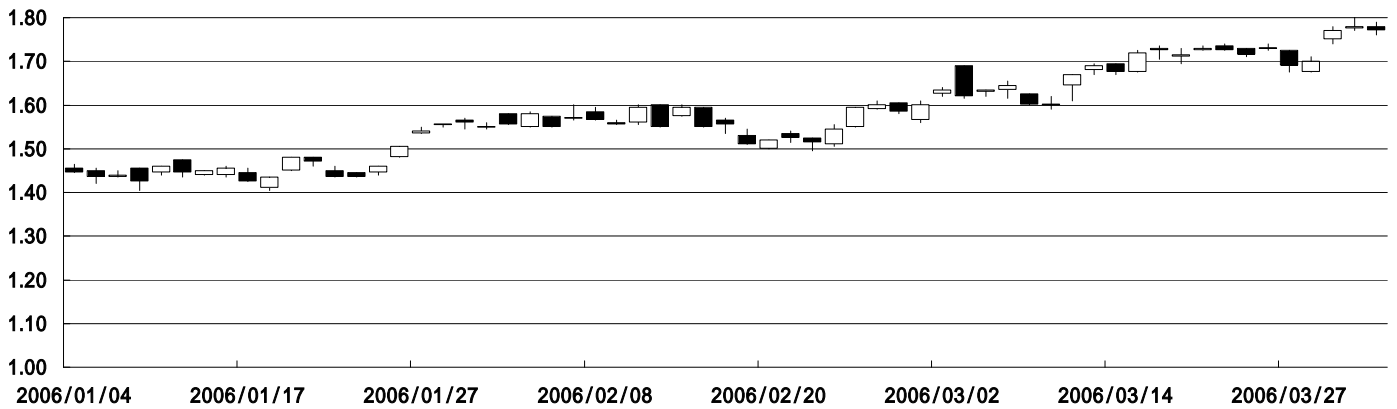
(為替)

焦点となっている日米の金融政策については、米国利上げ期待が継続する一方で、日本の利上げ期待はやや行き過ぎの感があり、今後修正される可能性が高いと考えます。このため、日本からの対外投資は、今後もこうした金利差拡大と日本人投資家のリスク許容度の上昇により根強い動きが見込まれることから、ドル高基調での推移を予想します。

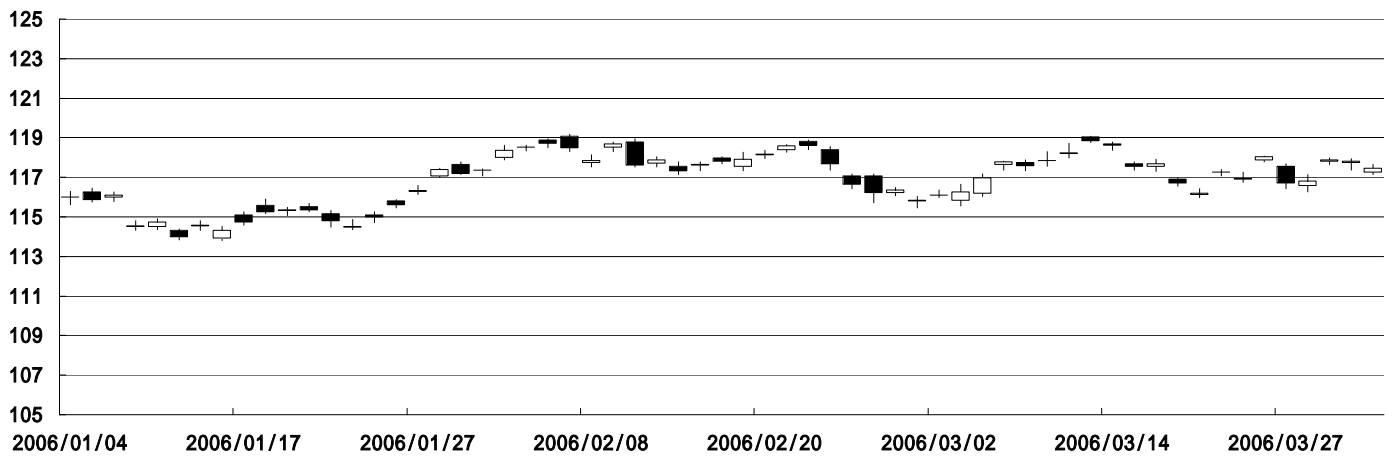
・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
 ・当資料は当社が信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
 ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
 ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

市況の推移

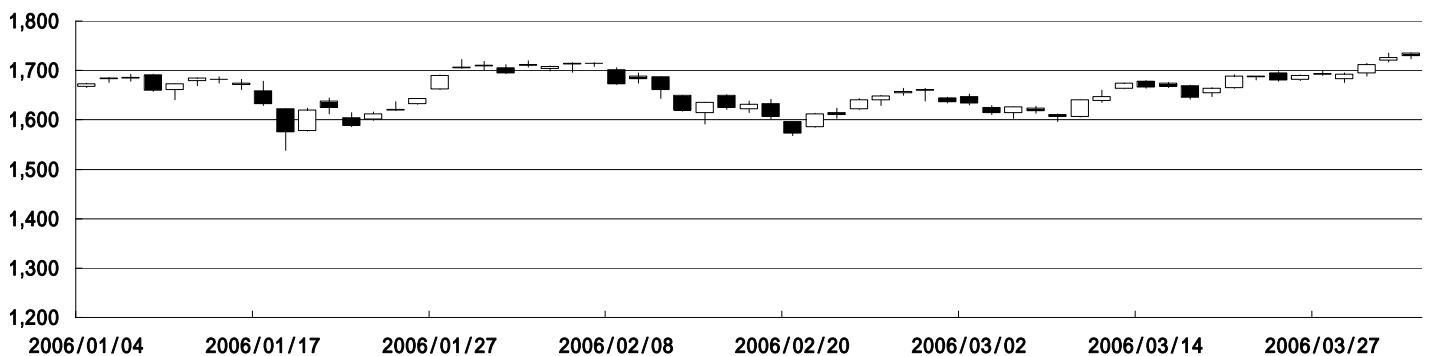
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



TOPIX(東証株価指数)



・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。